

ぼくのふるさと八百名山・再録

日本の元気を取り戻す方法論として考えた「一億二千万人総登山者化計画」、実際の行動計画が「みんなで登ろう、ぼくのふるさと八百名山」、である。

高い山がある県も、低い山しかない県も、人口が多い県も少ない県も、等しく各都府県からは17山ずつ、北海道からは18山、の合計800山選ぶ。みなさんからお気に入りの山を推薦頂くに際しての、選定基準を考えてみた。基準なんていうとオーバーだが、ベスト800という決めつけ作業ではなく、登山の輪を広げようという運動であり、一億二千万人総登山者化計画推進のためのマーケティングであることをご理解頂きたい。

山の品格・歴史・個性に加えて、1,500m以上という高さを付加的条件として、深田久弥さんは「日本百名山」を選ばれた。2005年、還暦記念に「ぼくの新日本百名山」を選んでみた。「47都道府県から必ず1山選ぶ」、「山好きを自認するからには登っておくべき山」という前提で100山選んでみたら、52山は深田百名山と重なっていた。

2005年、新日本百名山を1年間で登ろうという還暦記念チャレンジに際して、久弥さんのご長男である森太郎さんから、「父は、山の側から百山選びましたけど、岩崎さんは登る側から選びましたね、マーケティングですね」と、ご挨拶頂いた。「我が意を得たり」で、すっごくうれしい思いであった。ふるさと八百名山も、コンセプトは新日本百名山の延長線上にある。

「ふるさと八百名山」は、登り易さ・親しみ易さも条件とし、日本百名山は余りに有名なもので、ふるさと八百からは除くこととする。正統的な名山の条件というものはあると思うが、これはマーケティングなので情実あり、ジョークあり、政治的駆け引き？があってもいいじゃないか、結果として県内にバランス良く並ぶといいな、と思っている。

山好きは誰もがご贔屓の山を持っていて、民主的にコトを運ぼうと思っても、なかなか話しはまとまらない。最終的には「ぼくの」としてまとめ、「ふるさと八百名山」を選定することにした、ご了承頂きたい。

みなさんにご協力を仰ぎながらも、最終的なまとめを一人でやっているの、なかなかコトが進んでいない。2011年5月から、選定が終了した県から随時インターネットを通じて、「県別ぼくのふるさと八百名山」を紹介していく予定だったが、実際は足踏み状態である。それでも鹿児島・宮崎・長崎・熊本・大分・佐賀・福岡・兵庫・長野・神奈川・埼玉・栃木・山形・北海道については選定を終了した。

2012年はグズグズしていたら、2013年に入ってしまった。しっかりネジをまき直して、選定作業を進めなければなるまい。「ふるさと八百名山」を、自立した登山者育成に役立てたいと考えている。